



## 北アフリカ地域ニュース

### リビア：フランス国民議会におけるカダフィ指導者演説（12月11日付国営 JANA 通信）

1. フランスは EU とアフリカの協力に大きな役割を果たしている。リビアもまた OAU(アフリカ統一機構)の AU (アフリカ連合) への改編等に尽力し、EU との関係にも積極的に取り組んでいる。我々は地中海協力 5+5 のメンバーであるが、同協力機構にはエジプトとギリシャを加え、6+6 に拡大すべきだと考える。
2. リビアとフランスは地中海の平和と安定を共有しなければならない。現在、地中海の海洋資源は汚染の脅威にさらされている。我々は同問題に注意を払わなければならない。また、現在地中海は、アフリカ及び欧州のどちらでもない外国の軍隊の存在により、脅威にさらされている。これは、地中海の平和への努力に対する不安要素である。外国の原子力化学兵器及び生物兵器を積んだ軍艦が現れたとき、地中海は当惑させられる。我々はその脅威をよく考えるべきである。
3. 地中海協力 5+5 は興味深い機構である。我々は積極的に意見交換を行い、お互いに正しい構想を有するために理解し合わなければならない。過去を脱却し、新たな時代へと突入しなければならない。
4. 今、提案されることは、対話を行うことである。パレスチナやイスラエルでさえ現在は対話を行っている。私の著書「ホワイト・ブック」でも書いたが、パレスチナ問題を解決するには、パレスチナとイスラエルが一つの国を作ることである。パレスチナに二つの国を作ることはいできない。
5. 現在我々はグローバリゼーションの時代に生きている。国家は衰退し、地域共同体の設立が不可欠となってきた。一方で、マイノリティーな民族・宗教・文化に属する者達は、グローバリゼーションという怪物を恐れている。このような者達は、世界にとり残され、自身の権利・生活のために戦い始めている。ダルフル問題の背景には、紛争を継続することにより、国際的注目を集め、支援を継続してもらうという意図が存在する。
6. 第三世界の多くは、過去の世代の植民地支配によって資源を略奪される被害を被ってきた。欧州の指導者は、過去から学び、過ちを繰り返してはならない。我々は、植民地支配を放棄した新たな世代と、お互いに尊敬し合い、新たな時代を築きたい。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799